

今後の年内入試に向けた

小論文・志望理由書の指導のポイント

入学者の割合が一般選抜を上回るまでに拡大した年内入試とも呼ばれる総合型選抜・学校推薦型選抜。同選抜では、小論文や志望理由書（面接を含む）を通じて自分の考え・意見や明確な志望動機が問われる。今号は2025年度大学入試以降の同選抜に向けて、最新データも踏まえた指導のポイントを解説する。

指導のポイント

社会の動きを踏まえて、志望動機を表現する

社会的事象と自分を結びつける

2024年7月、ベネッセ教育情報センターは、ウェブセミナー「学校推薦型・総合型選抜セミナー」を開催。総合型選抜・学校推薦型選抜の現状をデータも交えて確認し、学校における課題を整理した上で、指導のポイントを、可否の鍵の1つである小論文、志望理由書に焦点をあてて解説した（P.45でアーカイブ動画を紹介）。

ベネッセ教育情報センターが23年に全国の国公立大学、私立大学を対象にし

て行ったアンケートでは、大学が選抜において受験生に求めるものは、総合型選抜・学校推薦型選抜のいずれも「明確な志望理由・志望動機」で、「基礎学力」「思考力・判断力・表現力などの応用的な学力」を抑えて最も多い回答だった。また、最も重視する選抜方法については、面接が1位に挙げられ、教科試験に続いて小論文が3位となった。面接において、志望理由書の内容が掘り下げられることを考えると、志望理由書や小論文が総合型選抜・学校推薦型選抜の可否の鍵を握っていると見えるだろう。

近年の総合型選抜・学校推薦型選抜に

図1 近年の小論文・面接の主な出題テーマと24年度大学入試での出題内容例

22年度入試	コロナ禍の影響、高度情報社会、持続可能な社会、ジェンダー、多様な働き方
23年度入試	コロナ禍の影響、国際情勢、高度情報社会、持続可能な社会、多様な働き方
24年度入試	AI、コロナ禍の影響、メディア・リテラシー、持続可能な社会、多様性・格差・共生 出題内容例 <ul style="list-style-type: none"> AIやICTの利用が社会的に進む中で、それらを農林水産物の流通や生産にどう活用できるか。（東北大農学部） コロナ禍から以前の生活に戻りつつある中で、他者と対面で接することのプラス面とマイナス面は何か。（東海大文学部日本文学科） ネットで誹謗中傷が行われる原因と、誹謗中傷をする人の性質について。（立命館大総合心理学部総合心理学科）

※ 22年度、23年度、24年度大学入試を受験した生徒への調査「受験レポート」に基づき分析。

おける小論文・面接の出題テーマとしては、コロナ禍の影響やロシアによるウクライナ侵攻などの国際情勢、AIやメディア・リテラシーといった技術革新に関するものが目立つ（図1）。総合型選抜・学校推薦型選抜に向けて、そうした社会

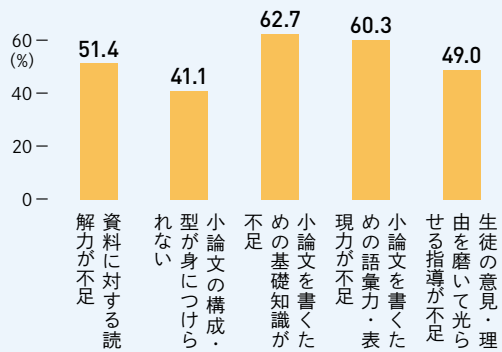
的事象について知っておくだけでなく、その事象の背景や明らかになってきている課題などを、自分と結びつけながら理解、考察し、論理的に表現することが生徒に求められる。

小論文指導のポイント

短期間での育成が難しい小論文指導。どのような流れで行うとよいのだろうか。

学校現場の課題感

小論文指導における現場の課題感は、ベースとなる構成・型の習得から中身の研磨まであり、育成すべき力は多岐にわたる。



※ベネッセ教育情報センター「2024年度学校推薦型・総合型選抜セミナー事前アンケート最終集計結果」より。複数回答を集計。

新聞のコラムを活用し、意見を述べる型を習得

ウェブセミナーでは、小論文・志望理由書指導の事例が紹介された。愛知県・私立杜若^{とわが}高校普通科創造コースでは、生徒が新聞のコラムを使って小論文を書き、その内容をスライドにしてプレゼンすること、自分の考えを正確に相手に伝えるための「型」を身につけさせる指導を行っている(図2)。具体的にはまず、新聞のコラムを読みながら気になったところに下線を引き、それをプリントに書き出す。次に、書き出した内容に

対して賛成・反対、共感・違和感など、自分の立場を明確にし、筆者の主張や自分の立場に対して「なぜだろうか」「いつからだろうか」などと問いを立て、その問いに対する仮説や論拠となる具体例を挙げる。

そのように、他者の意見をうのみにするのではなく、賛成・反対など、自分の意見を明確にしながら、「なぜ?」「誰が?」「どのよう?」などと問いを重ね、他者の意見に対して自分の意見をぶつけながら、より豊かな意見へと発展させていくための「型」を身につける。同校では、そうした指導が総合型選抜・

学校推薦型選抜での小論文の序論部分を構成する力の育成につながっていると考えている。実際に多くの生徒が、序論・本論・結論等の型に基づいて自分の意見を正確に表現した小論文を作成できているという。

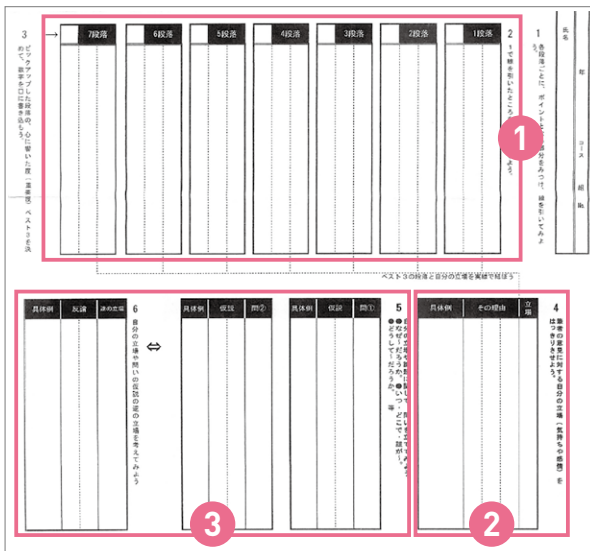
小論文の型を理解し、背景知識を増やしていく

また、茨城県立水海道第一^{みづかいどう}高校では、低学年次から小論文の型や基礎知識を身につけながら、自分の意見をまとめる

力を養う指導に取り組んでいる。

1年次は、小論文の構想段階から添削を行い、小論文の型を身につけさせる。2年次の1学期には、自分の意見や基となる背景知識を小論文の型の中に入れることができるようにするために、社会問題に対する自分の意見を書いたり、グループでディスカッションをしたりして、物事を多面的に捉えながら自分の意見をまとめる練習を積む。その上で、2年次の秋からは、語彙力・読解力を高めるような知識のインプットや系統別のテーマ学習を行っているという。

図2 杜若高校:「自分の考えを正確に相手に伝える型」を身につけさせる小論文指導



- 800字程度の新聞のコラムを読みながら、気になったところに下線を引き、それをプリントに書き出す。書き出されたものを比較して、気になったベスト3を選ぶ。
- 気になったベスト3に対して、自分の立場(気持ちや感情)を明確にする。
- 自分の立場や論点に関して、5W 1Hを参考に「なぜ~だろうか」などと問いを立てる。さらに自分とは逆の立場からも問いを考えてみる。

※学校資料を基に編集部で作成。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

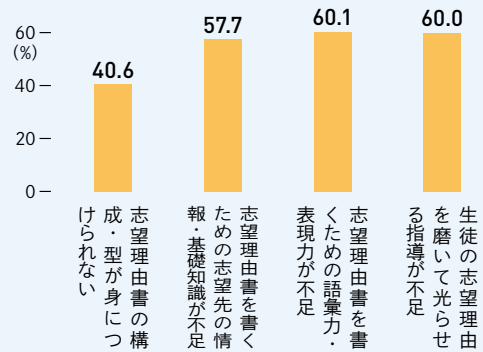
担任

志望理由書指導のポイント

面接での質問の土台となるのが志望理由書。志望理由を磨き上げるためには、どのような指導が必要なのだろうか。

学校現場の課題感

志望理由書指導における現場の課題感は、志望理由書作成の構成・型の理解から志望先に関する情報収集、表現力の育成と志望理由の研磨までと様々だ。



※ベネッセ教育情報センター「2024年度学校推薦型・総合型選抜セミナー事前アンケート最終集計結果」より。複数回答を集計。

志望のストーリー化を、 面談を繰り返す中で実現

神奈川県・川崎市立橋高校では、「なりたい自分」に向かうための行動サイクルについて自問自答させる「キャリアプランニングシート」を、3年次1学期に同シートに取り組むことを通じて、総合型選抜・学校推薦型選抜に挑戦する覚悟を生徒に問っている。そして同シートの記入に繰り返し取り組むことを決意した生徒を、総合型選抜・学校推薦型選抜の受験につなげている。

また同校は、見える化された生徒プロフィール等を基に、生徒一人ひとりに複数の教師を指導担当として割りあてて、全教師での指導体制を構築している。その際にも、キャリアプランニングシートを用いながら、生徒一人ひとりの魅力を

えた社会への問題意識や深めたい興味・関心、そして社会にどんな影響を与える人になりたいか、今、志望している仕事は何か、その実現のために志望している大学はどこかというように、生徒の志望がストーリーとして可視化される構成となっている。同シートを基に、生徒が志望理由を説得力を持って語れるようになるまで、面談を繰り返す。

図3 橋高校：「なりたい自分」に向かうための行動サイクルを自問自答させる「キャリアプランニングシート」

※総合型・学校推薦型(公募型・指定校制)受験者は5月31日までにこのワークシートを仕上げ、進路指導担当の提出ボックスに提出すること。未提出者の指導は一切しません。

① 高校時代までの経験(頑張ったこと)

② 上の経験から学んだこと

③ ②を踏まえて社会への問題意識 or 深めたい興味関心

④ 大学のアドミッションポリシー

⑤ 志望校名

⑥ 大学での学修計画

⑦ ⑥を実現するために、今現在考えている仕事

キャリアプランニングシート①

過去 現在 未来

高校生活 大学・専門など 仕事

経験

社会への問題意識・興味関心

⑧ なりたい自分
社会にどんな影響を与える人になりたいかを踏まえて記述すること

3年 組 番 名 前:

- ① 高校時代までの経験(頑張ったこと)
- ② ①の経験から学んだこと
- ③ ②を踏まえて社会への問題意識や深めたい興味・関心
- ④ なりたい自分(社会にどんな影響を与える人になりたいか)、⑤ ④を実現するために、今志望している仕事
- ⑥ 志望校名とアドミッション・ポリシー、⑦ 大学での学修計画

ストーリーとして語れるように、①から⑦の質疑応答を面談で繰り返す

※学校資料を基に編集部で作成。

最大限引き出し、磨く指導をしているようだ。

学年全体で探究学習の成果を生かし、志望理由書を作成

群馬県・私立高崎健康福祉大学高崎高校では、生徒主体で企画から運営までを行う「健大高崎 Well-being DAY」の取り組み等の、探究学習の成果や知見を生かし、3年次に、志望理由書を作成する進路学習に取り組んでいる。「キャリアナビ」を活用し、3年次6月末の志望理由書の提出を目指して、4月から段階的に準備を進める。具体的にはまず、志望理由書の作成に必要な要素を項目分けした構想メモの段階で、教師からオンラインによる添削を受ける（返却までに約1週間）。

生徒は、教師からフィードバックされた内容を踏まえて構想メモを書き直す。作成した志望理由書は、改めて教師の添削を受ける。原稿用紙にいきなり志望理由を書くこととするとなかなかペンが進まない生徒でも、構想メモの質を高めることで、その後の志望理由書の作成がスムーズに進むという。

まとめ

小論文や志望理由書は、書く中で型を身につけた上で、書いた内容を磨き上げる

学校としての 仕組み化を目指す

小論文・志望理由書の指導では、生徒たちが社会問題などについての基礎知識を身につけたり、小論文や志望理由書の構成・型を理解したりしながら、「まずは書いてみる」機会を設けることが求められる。そして、「構成・型の活用や基礎知識の補完」という土台部分は、自校の生徒の実態に合った形で各校で仕組み化することが重要だと言えるだろう。今号で紹介した事例では、オリジナルのワークシート等を使って、生徒が型を活用しながら自分の意見を論理的に表現できるようにするための指導が行われていた。また、面談を充実させるための工夫をし、一人ひとりの生徒の志望を磨き上げていた。

ウェブセミナーでは、今号で紹介した実践事例をより詳しく説明している。

ぜひ自校に合う形で事例を取り入れることで、今後の指導を充実させていきたい。

まとめ 小論文・志望理由書の指導のポイント

まずは一度 書いてみる

総合型選抜・学校推薦型選抜を利用するかどうかの1つの判断材料を、生徒に提供する。

書いた内容を 磨き上げる

生徒一人ひとりに向き合い、強みを認めつつ、問いかけにより、生徒の魅力を引き出す。

構成・型を活用しながら 基礎知識を補完しながら

書く手順の理解と、書くための知識・経験の必要性を知る。

「学校推薦型・総合型選抜セミナー」アーカイブ動画

https://bhso.benesse.ne.jp/hs_online/sidou/shinro/article/20240730_suisensougouseminar/
総合型選抜・学校推薦型選抜に関する情報を整理した上で、指導の「効率化」と「深化」をテーマに全国の実践事例を紹介したウェブセミナーのアーカイブ動画を、Benesse High School Online に掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

小論文出題テーマ一覧（推薦）

https://bhso.benesse.ne.jp/hs_online/nyushiinfo/nyushi/suisen-sougou/nyushiinfo_kamoku/#tab-03

2024年度大学入試（国公立大学）で出題された小論文の出題テーマを一覧にした資料を掲載しています。ぜひ、ご利用ください。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任